

シロバナノホトケノザ (シソ科) とアメリカキカシグサ (ミソハギ科) の2種の日本新産帰化植物

勝山 輝男

Teruo Katsuyama:

Lagopsis supina (Lamiaceae) and *Rotala ramoisor* (Lythraceae), Newly Naturalized in Japan

横浜市で採集された2種の原因・学名不詳の帰化植物の標本が手元にあったが、それぞれシソ科の *Lagopsis supina* とミソハギ科の *Rotala ramoisor* であることが判明したので報告する。いずれも、その後の採集記録はなく、一時的に発生したものにすぎないが、日本への最初の野生化の記録である。

1. *Lagopsis supina* (Steph.) Ik.-Gal. ex Knorr. (*Marrubium incisum* Benth) シロバナノホトケノザ

1992年4月22日に横浜市中区新港埠頭の空地で見たことのないシソ科植物が生えているのを見出した。メハジキに似ているが、花は白色で小さく、上唇の外面には白毛が密生し、萼裂片の先は針状に尖る。花は4月に咲き始め、6月には結実して枯れてしまった。はじめヨーロッパ原産の *Leonurs cardiaca* L. と思い、記載と比較したが、葉の形が少し異なり、花の大きさや花期も異なる。とりあえずミナトメハジキと仮称して報告した (勝山, 1992)。その後、国立科学博物館の *L. cardiaca* の標本を調べて見たが、やはりミナトメハジキとは異なるものであった。このことについては浜中 (1996) で報告されている。

しばらくそのままにしておいたが、最近調べ直してみたところ、李 (1977) の記述と図より、ミナトメハジキは中国～東シベリヤに産する *Lagopsis supina* であり、Nakai(1921)によりすでにシロバナノホトケノザの和名があることが判明した。李 (1977) や野田 (1971) には線画の図が、呉征鑑編 (1986) にはカラー写真が掲載されている。

シロバナノホトケノザは西は中国のシンチャン・ウイグル自治区から西南、華北、華中、東北の各省、朝鮮、シベリア東部にかけて分布する。これまでに国内からの報告はなく、新港埠頭のもののはじめての帰化の記録と思われる。新港埠頭では3年ほど生育していたが、埠頭の整備に伴い失われた。

以下に新港埠頭で採集された標本に基づく特徴を記す。多年草。茎は直立し、基部から分枝し、高さ

20～50cm、4稜形で、下向きの細毛を密生する。葉は対生し、1～2 cmの柄がある。葉身は円形または卵形で、長さ幅ともに1～3 cm、掌状に3または5深裂し、裂片はさらに3～5中裂し、両面に短毛を密生し、下面には腺点がある。花は4～5月に

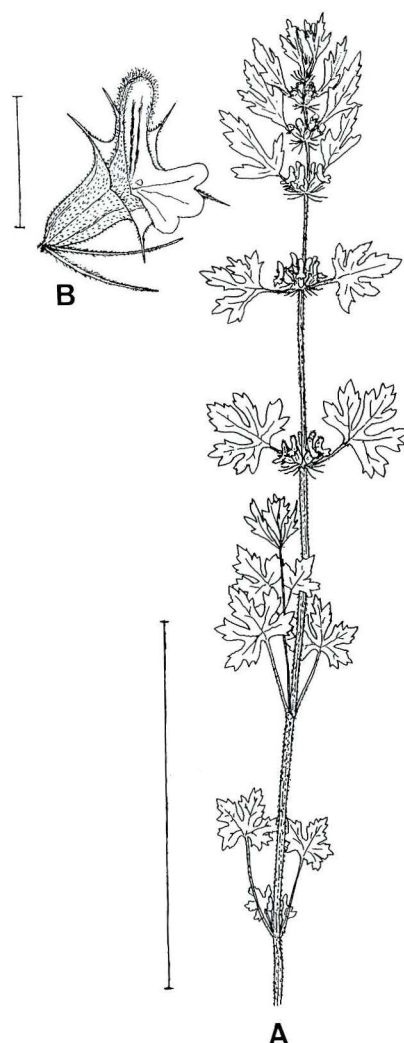


図1. シロバナノホトケノザ *Lagopsis supina*.
A:植物体の上部 スケール 10cm; B:花と2
個の苞 スケール 5mm.

咲き、葉腋ごとに数個ずつ輪生し、柄はない。苞は各花の基部に2個ずつあり、針形で長さ3～5mm、短毛を密生する。萼は筒状で、長さ4～5mm、細毛を密生し、先は5裂し、裂片は三角形で先は長さ2mm位の刺になる。花冠は白色で唇形。上唇は直立し、長楕円形で長さ4～5mm、外面には白色毛を密生し、内面には白毛を散生し紫色の2条がある。下唇は前方に突き出し、長さ3～4mm、両面ともに白毛を散生し、先は3裂する。雄しべと雌しべはともに短く、花外に突き出さない。

標本：KPM-NA0112766 横浜市中区新港埠頭
Apr.22,1992 勝山輝男

2. *Rotala ramoisor* (L.) Koehne アメリカカキシサ (新称)

神奈川県植物誌調査会の吉川アサ子氏が、横浜市保土ヶ谷区花見台で、ミソハギ科の不明植物を採集された。日本産のものには該当するものがないので、移入によるものと考え、外国の植物誌にあたってみた。その結果、Correll & Correll(1972), Godfrey & Wooten(1981), Cronquist et al.(1997), Gleason & Cronquist(1991)の記述より、アメリカ合衆国から熱帯アメリカに広く分布する *Rotala ramoisor* と判明した。和名はアメリカカキシグサと新称する。

吉川氏によると、*R. ramoisor* は公園のツツジの植え込み内の雨後には水がたまるような水はけの悪い場所に、アメリカアゼナと混生して1個体のみ生え

ていたという。地味な植物で、国内での栽培の記録は見当たらない。種子が微細なので、何かに随伴して持ち込まれたものと推定される。吉川氏によると、1998年夏には同所に発生は見られなかったという。

以下に採集された標本をもとに特徴を記す。1年草。茎は直立し、ときに分枝し、高さ20cm程度、鈍4稜があり無毛。葉は対生し、短い柄があり、狭長楕円形で、基部はしだいに狭まって柄に流れ、先は鈍頭、長さ1～4cm、幅3～10mm、側脈は目立たず、両面ともに無毛。花は葉腋に単生し、柄はなく、長さ約2mm、萼筒の基部に2個の苞葉がある。苞葉は狭長楕円形または倒披針形で、萼筒と同長または短い。萼筒は花時に長さ2.5mm、幅1.5mm、果時にはやや大きくなり、4個の裂片と4個の付属片がある。萼裂片は広三角形で先は短く尖り、筒部の1/4～1/5長。付属片は三角形で萼裂片と同長またはやや小さい。花弁は小さく淡紅色。さく果は球形、萼筒に上部まで包まれ上端のみが露出し、多数の微細な種子を出す。種子は卵形で片側が凹み、長さ0.2～0.3mm。

標本：KPM-NA0113201 横浜市保土ヶ谷区花見台
Aug.6,1997 吉川アサ子

本報告の標本は「神奈川県植物誌1988」の補充調査及びその改訂のための調査で集められたものである。末筆ながら標本を採集された吉川アサ子氏に感謝申し上げる。

引用文献

- Correll, D.S. & H.B. Correll, 1972. Aquatic and Wetland Plants of Southwestern United States. xv+1777pp. Environmental Protection Agency.
- Cronquist, A., N.H. Holmgren & P.K. Holmgren, 1997. Intermountain Flora, Vascular Plants of the Intermountain West, U.S.A., Vol.3, Part A. 446pp. New York Botanical Garden, New York.
- Gleason, H.A. & A. Cronquist, 1991. Manual of Vascular Plants of Northeastern United States and Adjacent Canada, Second Edition. lxxv+910pp. New York Botanical Garden, New York.
- Godfrey, R.K. & J.W. Wooten, 1981. Aquatic and Wetland Plants of Southeastern United States, Dicotyledons. 933pp. The University of Georgia Press, Athens.
- 呉征鑑編, 1986. 雲南の植物Ⅱ, 280+530pp. 日本放送出版協会, 東京.
- 浜中義治, 1996. ハーブと帰化植物. *FLORA KANAGAWA*, (42): 456-457.
- 勝山輝男, 1992. 帰化植物がゾロゾロ. *FLORA KANAGAWA*, (34): 368-372.
- 李錫文, 1977. 夏至草属. 呉征鑑・李錫文編, 中国植物志第65巻第2分冊 pp.254-258. 科学出版, 北京.
- Nakai, 1921. Labiatae Coreanae. *Botanical Magazine, Tokyo* 35:169-183.
- 野田光蔵, 1971. 中国東北区(満州)の植物誌, 5+1613pp. 風間書房, 東京.

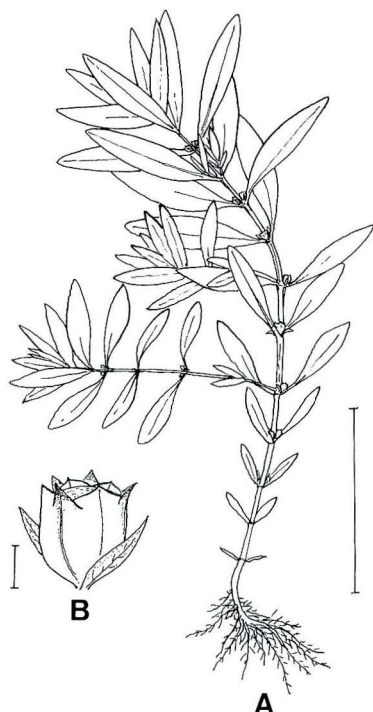


図2. アメリカカキシグサ *Rotala ramoisor*. A: 全草 スケール 5cm, B: 萼筒に被われた果実と2個の苞葉 スケール 1mm.

(神奈川県立生命の星・地球博物館)